

市 民 の 声



梶山 起朗
南九州市 市長

議会に期待すること

3町が合併して早4年目を迎えました。

その間、議会・市当局におかれましては市民体育大会、地区対抗駅伝大会、ふれあい球技大会等を企画運営され、市民の交流、融和を図られ、ご

尽力なされたことに感謝申し上げます。我が郡地区公民館においても、そのつど公民館運営審議会、自治会長会、体育部会等を通じて、理解、協力し地区民の融和を図るとともに、他地区の皆様とも懇親、交流を重ねております。

議会、市当局に期待することとして、南九州市

に住んで良かったと思われる施策の実行です。

合併当初の基本理念である3町のバランスのとれた発展、活性化するための施策を期待します。

当地区は農業を一つの軸として、お茶団地、ピーマン、人参等の野菜団地、花卉団地等の造成、集約を図り実績をあげていますが、農業を取り巻く厳しい環境、情勢についてはご承知のとおりです。

足腰の強い、再生産できる農業の確立のため、「安心」「安全」そして「おいしい」「農畜産物生産のため、関係機関、団体等、連携をスムーズにし、強い農政の推進を図って欲しいと思います。



加藤 永
川辺町 町長

みんなのふるさと

私が生まれ育った川辺町が合併して早3年が経つが、南九州市となった今でも町の明るさや人の暖かさは依然として残っている。ほかにも町の団

体を中心とした磨崖仏まつりや二日市などでは、年代を超えた住民の絆が随所にみられる。現代の日本に失われつつあるこのような風景をみると、この町に生まれたことを誇りに思う。しかし、私たちにほっと活気のある町づくりができるのではないだろうか。そこで私はこれからの南九州市をよりよくするために、それぞれの町の特産物、

たとえば川辺町の仏壇、

額娃町のお茶、知覧町の特攻平和会館などの魅力を世界中に宣伝して広めることで、観光客を増やし、町を活性化させることを南九州市議会に期待する。また、歴史ある川

辺高校を存続するため、川辺高校の良さである生徒の積極的なボラン

ティア活動への参加や明るい校風、勉強や部活動への熱心な取り組みなどを、私たちと共に多くの学生や市民の人々に伝えて欲しい。そうすることで、減少し続けている生徒の数も増え、地域の発展につながるのではないだろうか。

私はこの南九州市が、市民誰もがいつまでも誇れるやすらぎの場所になることを願う。

広報編集委員会 研修報告

5月12日～13日までの

日程で、福岡県柳川市、熊本県玉名市で、広報編集についての研修を行いました。議会だよりは、議会の動きや予算の審査、議員の活動などをわかりやすく市民の皆さまに伝える役割があります。今後でも限られたスペースではありますが「市民の声」をはじめ、皆さまに情報提供をしていただくコーナーを設け、より親しみやすい議会だよりづくりに、委員一同努めてまいります。



玉名市での研修

編集後記

6月27日付け、南日本新聞の南風録に「放射能が降っています。静かな夜です。」の見出しで、福島市在住の詩人合亮氏の「詩の礫」の記事が載っていた。放射能の恐怖と水や食料不足、ひっきりなしに襲う余震、未曾有の災害に直面して言葉を失った人は少なくないと綴っている。本市の防災計画は十分なのかと、今回4人の議員が一般質問を行った。市民の住宅や事業所・学校など、津波に対する避難所の見直しが必要との答弁だった。「自分の命は自分で守る」という自衛心と相互の絆が大切と思いつつ、一日も早い被災地の復旧・復興を念じてならない。(峯芒)

委員長 峯芒 勝範
副委員長 山下 つきみ
委員 満留 秀昭
大藪 秀己

加治佐民生
菊永 忠行